

航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

各ワーキンググループとりまとめ概要
(令和元年度)

整備士養成ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

■整備士の英語能力向上

- ・これからの時代に適した最新の英語学習法を知り、実践することを目的として開催、昨年度は「航空英語学習講座」（1日コース）を【入門編】と【応用編】に再編集し、今年度引き続き実施するなど、整備士の英語能力の更なる向上に向けた取組を実施。（計3回）
- ・スマートフォン用Webページ「スマホで航空英単語」については、アクセス数の順調な伸びを背景に内容拡充の準備を進めた。 ※アクセス数 約2.7万件（令和2年3月末現在）

■整備管理従事者の養成

- ・昨年度から引き続き、整備管理従事者講習会【入門編】（2日間コース）及び【専門編】と位置づけた「航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB,MEL）」（2日コース）を継続して実施。

（入門編×2回、専門編×3回）

■整備士の技量・技能の維持・伝承

- ・これまでの取組において知見や技法等の共有と蓄積がある程度進んできていたことを受け、発表会がより充実した内容となるよう継続して検討を実施。

■中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討、外国人材の活用等

- ・「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」を開催。（令和元年9月）
- ・外国人材の活用に係る制度について、特定技能評価試験（航空機整備）を海外（モンゴル国）において実施したことを情報を共有。本制度の運用については、航空分野特定技能協議会で議論される。

今後の検討課題・取組み等

■整備士の英語能力向上

- ・学校教育機関や航空会社、整備・製造会社等での普及状況をモニターしていく。

■整備管理従事者の養成

- ・整備管理従事者講習会【入門編】及び【専門編】を実施するため、その実施状況を共有していく。

■整備士の技量・技能の維持・伝承

- ・発表会で共有され蓄積されてきた知見や手法等をもとに、整備士の技量・技能の維持伝承に関するPDCAサイクルの実践への取組について検討をしていく。

■中長期的な整備士の資格制度のあり方・養成のあり方、外国人材の活用等

- ・中長期的な養成・人材確保については、各機関での取組内容を共有していくこととし、必要に応じてWGを開催することとする。

製造技術者ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

1. 技能認定制度の検討

中部地域で従来から実施している「航空機製造技術者育成講座（構造組立初級）」については、生産需要の伸び悩みを受け、想定した受講者数を下回るケースが多かった。現時点で民間検定試験として、受検生の確保をすることは困難との認識で一致した。

2. 非破壊検査員の人材育成

「日本航空宇宙非破壊試験委員会」を中心に、訓練機関・試験機関と連携体制を構築。必要な制度のうち国内初の資格試験実施、適格性評価証明書の発行体制を構築した。また、非破壊試験及び当該認証体制の国際動向把握のため、PRIと我が国の体制整備に係る情報共有及び示唆を得た。

今後の検討課題・取組み等

■ 技能認定制度の検討

今後の機体需要等の業界動向を踏まえ、受検生確保の目途が立ち、大手製造各社の総意により、国家技能検定化を踏まえた民間検定試験への移行の希望がなされた場合に「技能認定制度検討分科会」の開催を検討する。

■ 非破壊検査員の人材育成

非破壊検査人材育成プログラム（資格試験）の体制構築・拡充、構築体制の国際承認制度への準拠、訓練講座の講師候補の探索、等の検証を実施する。

裾野拡大ワーキンググループ

具体的な検討・取り組み内容

■ 女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加に向けた取組

- ・ 現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会を開催。（R1.12）

■ 航空機産業人材確保に関する取り組み

- ・ 経済産業省（中部経済産業局）において、高等専門学校を学生を対象に国際的商談会の見学を開催し、航空機産業のビジネスに対する関心の向上を図った。航空機関連企業における若手社員の学び直しの場を提供し、アビオニクスや複合材等をテーマとした「航空機部品高度生産技術者育成研究会」を開催し、即戦力となるために必要な知識の定着を図った。航空機分野への新規参入を目指す企業等を対象とした中核人材育成講座や、今後市場開拓が期待される航空機装備品分野について新規参入者向けの教育プログラムを実施した。

■ その他裾野拡大に関する取組

- ・ 埼玉スカイスポーツフェスタ2019（公益財団法人日本学生航空連盟）＊台風の影響により中止
－ グライダーなどを実際に“乗る、ふれる、飛ぶ”ことができる体験の実施 等
- ・ 子ども霞ヶ関見学デーへの協力
－ 現役操縦士等によるお仕事紹介、日本航空学園によるフライトシミュレーター体験 等
- ・ 各航空会社における取り組み（航空教室の実施、工場見学等）

今後の検討課題・取り組み等

■ 「子ども霞ヶ関見学デー」、講演会等のイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大の状況も踏まえ、感染防止の対策を講じつつ、可能な範囲で引き続き計画・実行していく。

■ 航空機産業人材確保については、これまで高専生に対して専門技術者による講義等を実施し一定の成果が出たことから、引き続き、大学、高専、専門学校と連携した学生向け取り組みを検討していく。